

今こそ、子どもの気持ちや発達を一番大切にする教育を

～つながりあい、学びあって、未来を切り開こう～

# 第21回全国障害児学級 & 学校 学習交流集会 in 東京 (+オンライン)

期日：2022年1月9日(日)～10日(月・祝)

開催要綱

場所：星陵会館(1月9日のみ) <東京都千代田区永田町2-16-2>

開催方法：オンライン併用

参加費：無料

新型コロナウイルスの感染状況によっては  
完全オンライン開催となります。  
申し込まれた方にメールで案内します。

日程 1月9日(日) 13:00～16:00 全体会(オンライン配信あり)

18:30～20:30 オンライン交流会

1月10日(月) 9:30～12:30 旬の実践分科会・基礎講座

(オンラインのみ)

## ◇ オープニング 13:00 ～ 13:20

東京で活動している、障害のある子どもたちの文化・スポーツサークルの発表です。

和太鼓サークル「朝日太鼓」、ダンスサークル「RISE」による元気なパフォーマンスと、障害のある人もない人も一緒にアートをサークル「ぼくらの美術研究所」の作品が素敵にコラボする舞台(映像)を送ります。文化との出会いが、コロナ禍の中でも、卒業後も含めた生活を豊かにしてくれているそうです。いきいきと活動している子どもたちの姿をお楽しみに！

## ◇ メイン企画13:20 ～ 15:50 (途中休憩あり)

### リレートーク

#### 『創造していこう！子どもにあわせた学びを、そして学校を』

いま、子どもたちや学校をとりまく状況は厳しさを増しています。さまざまな困難を抱えている子どもたちが主人公となる学びは、しっかり保障されているのでしょうか。

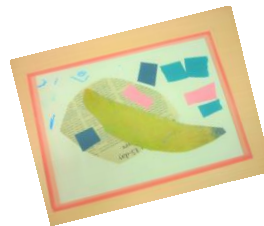
日々子どもたちに向き合う教員の実践や、学校を卒業した青年のみなさんが語る「学び」や「学校」から、子どもたちの声を深く聴き取り、子どもたちが必要とする教育実践を、そして学校づくりを考えていきます。

【特別支援学級 教員】立川 都さん (東京)

【特別支援学校 教員】佐藤 比呂二さん(東京)

【卒業生 青年】モアタイムねりまの青年のみなさん

【まとめ発言】河合 隆平さん(都立大学)



## ◇ まとめ・諸連絡 15:50 ～ 16:00

(カット：ぼくらの美術研究所)

主催：全日本教職員組合障害児教育部・教組共闘連絡会・現地実行委員会

【お問い合わせ】TEL 03-5211-0123 FAX 03-5211-0124

# オンライン交流会(カタリバ)(1/9) 18:30~20:30

昨年同様、ZOOMでのオンライン交流会を行います。「特別支援学級の先生と交流して、各県の様子を聞きたい」「青年教職員同士で交流したい」などのご希望のある方、お気軽にご参加ください。参加人数にあわせてグループ分けを行い、10人程度で気軽にオンライン上で交流できるようにします。



# 旬の実践分科会(1/10) 9:30~12:30

旬の実践分科会	共同研究者
1, 障害児学級での教育実践(小)	大島 悦子さん(元支援学級教員)
<p>学級には、様々な障害、発達段階の子どもたちが在籍しています。子どもたちに「集団・文化・生活」を保障する障害児学級づくりや授業づくりを、様々な困難の中で取り組んでいる実践レポートをもとに、学び合いましょう。</p> <p>矢島 健思(東京)「物語文を楽しむ『ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ』」 梅野 桜子(北九州)「子どもたちの笑顔を育むー自然の恵みに感謝してー」</p>	
2, 障害児学級での教育実践(中)	山下 洋児さん(元支援学級教員)
<p>中学校の学級に在籍する生徒たちの発達段階はいろいろ、抱える障害や悩みもいろいろ。そんな思春期の入り口に立つ子どもたちに、どのように向きあい授業実践を行っていくのか? 「個別指導」一辺倒になりがちなかで、子ども同士の「学び合い」を大切にしたい育ちあう集団づくり、授業づくりについて、2本のレポートから学び語り合いましょう。</p> <p>金坂 美穂(東京)「絵本ってすごい! みんなで読むってすごい!」 ~『ほんとうのことを いってもいいの』を中学生13人で読んでみた~ 幅野 勇生(広島)「集団で育つ子どもたち~学び合いを大切に~」</p>	
3, 通常学級・通級指導教室での教育実践	越野 和之さん(奈良教育大)
<p>通常学級の中で困り感を持っている子どもたちの支援の場として、通級指導教室ができることや、指導の可能性についてみなさんと考えていきましょう。</p> <p>三宮 将男(大阪)「不登校と通級指導教室ー僕は相変わらず元気ですー」 山下 真琴(埼玉)「子どもたちとの信頼関係作り ~2校25人兼務担当をしてみても」</p>	
4, 視覚障害児の教育実践	江口 美和子さん(元盲学校教員)
<p>点字指導や言葉の指導など、視覚に障害のある子どもたちへの教育実践で大切にしたい視点や専門性を深め合います。あわせて、いまだ続くコロナ禍のなかで、さまざまな不安や困難を抱える視覚障害児・者の生活や教育について話し合います。</p> <p>塚崎 幸平(埼玉)「サトシとの自立活動の記録~自立活動を通して見えてきた子どもの心~」 多田 美記(滋賀)「生活を豊かにする言葉の指導~伝わるって楽しいを引き出すために~」</p>	
5, 聴覚障害児の教育実践	竹沢 清さん(元ろう学校教員)
<p>医療の進歩による障害の早期発見、補聴機器の性能向上など聴覚に障害のある子どもたちの就学形態や教育環境は大きく変化をしています。ともに学びあうための集団保障、障害を併せ持つ子どもたちの教育のあり方、人事が流動化する中で専門性の維持継承など課題も多くある中で、大切にしたい子どもたちの育ちについて話し合い、学びを深めましょう。</p> <p>松村 佳実(埼玉)「デフフードを取り入れた授業づくり」 ~自分がどのように生きるかを探究する~(ろう学校中学部) (要請中)</p>	
6, 病弱の子どもたちの教育実践	栗山 宣夫さん(育英短期大)
<p>病気の子どもの学ぶ場は、教室、施設、院内学級、ベッドサイド、自宅など様々で学び方も様々です。病院スタッフの方々と連携と授業実践、原籍校の学級と院内学級をつなぐ取り組みと子どもたちへの支援などのレポートをもとに、病気の子どもの教育実践について、語り合い学び合いましょう。</p> <p>廣瀬 奈美(奈良) 「コロナ禍での院内訪問教育の現状」 ~病院スタッフとの“密”な連携を柱とした子どもへのかかわり~ 橋岡 正樹・佐藤 薫(大阪)「子どもの思いに応える分教室(院内学級)を目指して」 ~大阪市大病院分教室の取り組みから~</p>	

7. 障害の重い子どもたちの教育実践	河合 隆平さん（都立大）
<p>重度といわれる子どもたち、表現は小さくても内面では揺れる思いを抱えています。子どもたちの心に寄り添う授業づくり、文化的な取り組みを通して、子どもたちの表出や成長、授業づくりや教材の工夫について互いの実践から学び合いましょう。</p>	
<p>西田 宏子（京 都）「ドタバタな私たちのクラス」 若山 健太（埼 玉）「雨という『季節・文化』を子どもたちに伝えていくために ～『みる・きく』での絵本の取り組み～」</p>	
8. ことば獲得期から教科入門の子どもたちの教育実践	高木 尚さん（日本福祉大）
<p>「ことば」を獲得し、「教科」を学びながらイメージを広げ他者とのやり取りを豊かにしていく子どもたち。個別だけではなく、集団での学びを保障しながら子どもたちの心に響く文化をどのように用意していくか。人格を豊かに育てていくための授業づくり、教育課程づくりについて一緒に考えてみましょう。</p>	
<p>堂 章世（滋 賀）「ぼくの気持ち、わかってくれる？ ～Sくんのゆたかな表現と広がる世界～（知的中学部）」 益子 清意（高 知）「友達とともに（仮）」</p>	
9. 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり・教育課程づくり（小）	三木 裕和さん（元鳥取大）
<p>自閉症・自閉的傾向の子どもたちの“ねがい”から始まる実践を参加者のみなさんで深め合い、授業づくりや活動の工夫、教職員集団づくりについて考えましょう。</p>	
<p>小林 秀行（茨 城）「あせらず、じっくりと…～子どもたちと大切にしてきたこと～」 野村 優樹（滋 賀）「やってみたい！でも不安なんだ！わかってよ！」</p>	
10. 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり・教育課程づくり（中・高）	別府 哲さん（岐阜大）
<p>自閉(中高)分科会では、2本のレポートをもとに、中学部・高等部時期のことも理解や深い関わりについて、みなさんで考えたいと思います。昨年から引き続き zoom 開催で、zoomにも慣れ始めた仲間同士で、笑いあり涙あり、楽しく語り合える分科会を目指します。</p>	
<p>藤田 明宏（北海道）「ボクの気持ちを伝えたい～マサオさんとの3年間を通して考えたこと～」 築出 理美（滋 賀）「どうしたの?! 心の声をきかせて」</p>	
11. 青年期の課題と授業づくり・教育課程づくり	山崎 由可里さん（和歌山大）
<p>自分を表現するのが苦手、不登校を経験するなど困難な生活経過を経て高等部に入ってくる生徒たちに対して、内面に寄り添い心を開いていく取り組み、教科学習や行事、文化にふれる中で自分のいいところに気づき自分なりの表現方法と自己実現を模索する取り組み。卒業後を見据えた実践などを報告します。</p>	
<p>須藤 真人（東 京） 「18歳成人に向けた特別支援学校（知的障害）高等部の消費者教育 ～お金について考えよう～」 藤木 いおり 他（滋 賀）「卒業後の姿から学校生活で大事にしたいことを考える」</p>	
12. 性教育の実践	伊藤 修毅さん（日本福祉大）
<p>各地で行われている「こころとからだ」の学習のとりくみについて、実践レポートをもとに討議したり、共同研究者によるミニ学習で大切なことを深めたりしていきましょう。また、みなさんそれぞれの抱えている実践上の課題や困難さを、分散会で話し合えたらと考えています。</p>	
<p>佐久間千枝（宮 城）「初めての性教育～すすくタイムの子どもたち～」</p>	
13. 子どもを真ん中に寄宿舍教育を語ろう（寄宿舍1）	小野川 文子さん（北海道教育大）
<p>寄宿舍の実践は常に子どもたちを真ん中に置いて進められてきました。全国的に統廃合が進む中、今こそ寄宿舍教育を発信し、語り合うことが必要です。寄宿舍の教育的意義を参加者みなさんで確認していきましょう。</p>	
<p>阿部 晃子（宮 城）「重複障害を併せもつ子どもたちと共に歩んで」 平賀 邦宏（埼 玉）「盲ろう重複障害児の成長 寄宿舍生活10年間の歩み」(仮)</p>	
14. 集団生活に課題のあるケースから寄宿舍教育を考える（寄宿舍2）	能勢 ゆかりさん（滋賀）
<p>寄宿舍に入舎する子どもたちの障害が、年々重度・重複化しています。集団生活そのものに課題のあるケースレポートを通じて、寄宿舍教育の意義・価値を考えていきたいと思ひます。</p>	
<p>猪池 豊（香 川）「穏やかにすすく」 桐生 浩行（東 京）「響きあう二人 TとSの寄宿舍生活」</p>	

15, 保護者との共同・教育条件整備・学校づくり	吉田 洋さん(障滋協)
困難な状況でも、どのように子どもや保護者の願いに寄り添い、ともにつながって活動を進めてきたか、その実践や運動の報告を学び合います。そのことを通じて民主的な学校づくりや教育条件整備をどう進めていくか議論を深めます。	
坂上 哲雄 (東京)『東京都寄宿舍連絡会の活動報告』～保護者との運動について～ 鈴木こずえ (埼玉)「保護者とともに ～太鼓サークル10年目～」	
16, コロナ禍での教育実践	丸山 啓史さん(京都教育大)
コロナ禍の学校では、「子どもたちと教職員の命と安全を守ること」と「子どもの教育を受ける権利を保障すること」を両立するという難しい課題に向き合い、努力と工夫が行われているのではないのでしょうか。分科会の中では、報告される2つの実践レポートに学びながら、学校での実践にとどまらず、コロナ禍で見えた障害児教育の課題や子どもや家庭の実態などについても意見交流したいと思います。	
月上 茗茗(神奈川)「特別支援学校でのオンライン授業の事例と可能性について ～感染症流行禍の中で、在宅の児童生徒が学校の一員として学ぶために～」 宗像 真弓(東京)「新しい生活様式での寄宿舍生活 ～子どもの願いを受けとめる生活づくり～」	

## 基礎講座(1/10) 9:30～12:00

「障害のある子どもの発達に学ぶ」 白石 正久さん(龍谷大学名誉教授)

基礎講座では、『発達をなぜ学ぶのか』について考えていきたいと思います。子どもの発達の道筋の基本を知り、障害のある子どもの姿や問題行動の裏側にある発達要求をどうとらえるか、教師として、子どもの発達への願いにどう向き合っていけばよいか、について学びます。

## 参加のお申し込みについて【締め切り 12月15日】

### 1、参加の申し込み方法について

オンライン開催のため、WEB申し込みのみとします。

以下のURL、またはQRコードから、フォーム画面を出して、申し込みをお願いします。

<https://bit.ly/3a55XGy>

※申し込み後は、受付確認メールが「[info@tayori.com](mailto:info@tayori.com)」から届きます。迷惑メール設定をしている方は、このアドレスを外してください。

確認メールが届かない場合は、下記2までお問い合わせください。

※分科会で手話通訳を希望される方は、申し込みフォームの自由記述欄に必ずお書きください。

(手話通訳の申し込みは、11月末まで。全体会は字幕を付けます)

### 2、お問い合わせ

(全国実行委員会・全日本教職員組合障害児障教育部)

- TEL (03) 5211-0123
- FAX (03) 5211-0124
- MAIL [syoukyou\\_bu@educas.jp](mailto:syoukyou_bu@educas.jp)
- 担当：村田、青木



※ 各県組織によっては、希望者で集まり、モニターなどの大きな画面で視聴する、サテライト会場を開設する場合もあります。教職員組合に所属されている方は、各組織にお問い合わせください。

問い合わせ先がわからない場合は、上記の全国実行委員会にご連絡ください